



標本室外観

標本室内部

軒下の装飾

## 旧大曲農業学校 「標本室」

所有者: 県立大曲農業高等学校  
 建築年代: 明治36年~明治37年  
 用途: 標本室(建築当時は養蚕室)  
 構造形式: 木造平屋建、高窓造り。屋根は切妻造りの鉄板葺(当初は柿葺)。梁間3.64m 桁行7.27m。四角に切り揃えた石を基礎としてその上に土台をのせている。外壁は下見板張り。妻側軒先下は羽目板で装飾している。いたるところに擬宝珠風や方杖状、花模様彫り物が施されている。

### 特徴

- 明治36年、秋田農業学校が秋田市八橋から大曲に移転。当時の校舎は洋館風だったが、明治44年火災のため消失。焼け残った建物のうち、この標本室のみが現存している。大曲の街には、戦後も明治から大正時代の洋館が数多くあった。高度経済成長期に内陸南部随一の商業の街となった大曲は、建物の変遷も早く、洋館の姿を残すのは、旧きよげつ菓子店(当初は電報電話局)とこの標本室のみとなった。
- 内部の壁・天井の羽目板は白く塗装されている。外部の擬宝珠状の装飾にも白い色がわずかに残っており、当初は外部にも着色されていた可能性がある。北側玄関と南側窓の相違以外は全て左右対称の形となっている。全体のバランスの良さや丁度良い規模が度重なる地震に耐えた要因ではないだろうか。この建物が在ることで、学生が学校の伝統や地域の歴史に目を向ける機会にもなり得る貴重な建物である。

このコーナーは、まちで見かけた文化財級と思われる歴史スポットを勝手にご紹介するものです。※文化財指定はされていないもので、文化財級の価値がある!というものを取り上げております。



## NEWS マフィンとスコーンのお店 Na-BAKE

周囲を田園に囲まれた地域の自宅の一部を焼き菓子店にリノベーション。店内は明るい白と木を基調としながら、「新しいけれど『どこか懐かしさを感じる』焼き菓子店」をコンセプトとした。さわやかな青のドアを開くとカウンターいっぱいにとくさんの焼き菓子が並ぶ。カウンター前面にはナラ材を、天井には多種多色をカクテルした板材を張ることで、「木」の個性による控えめながらカラフルな室内空間となっている。  
 ※スコーンのみ予約販売(1日約300個)  
 ※9月いっぱい休業中、10月3日(土)より営業再開

Shop Data  
 大仙市四ツ屋字水木田84-1 TEL 0187-64-9064  
 OPEN 11:00~16:00 営業日 木曜日・土曜日  
 国道105号線沿い、大曲方面から角館方面に向かう左側



## やまとスタッフのイチオシ!~音楽編~

チャルメラと聞けばあの有名なメロディー「チャララ~ララ~チャララララ~」がすぐ思い浮かぶ方も多いのでは?この「チャルメラ」、実ははっきとした楽器の正式名称なのです。むかし西アジアで誕生した「ズルナ」という楽器がはるばるシルクロードを伝わって中国では「スオナ」という名前に変わり、それが日本で「チャルメ

ラ」と呼ばれるようになったそうです。またこの「ズルナ」がヨーロッパ方面へと伝わりフランスで誕生したのが、現在オーケストラでも活躍する「オーボエ」だとか。ルーツが同じこの楽器、よく耳を澄ますと音が似ていると思いませんか?

(Saito)



(長さ約30cm)

屋台時代のチャルメラ 大仙市大曲丸の内町 繁盛軒本店 蔵

繁盛軒本店には、創業当時を忍ばせる資料も残る。大曲農業学校の生徒が美味しそうに中華そばをする様子。

## NEWS 定期報告制度改正、気付かぬケース注意

定期報告制度は、建築物の中でも病院、集会場、百貨店、遊技場、旅館、ホテル、劇場、映画館、事務所、高齢者利用施設、学校などの不特定多数の人が利用する建築物を管理又は所有する方に、建築物及び建築設備について建築士などの資格者に調査を依頼し、調査結果を県などに報告するよう義務付けられた制度です。

建築物が完成したときは、建築基準法の検査を受けているため安全な状態ですが、建てた後のチェックがなされておらず火災や地震で被害が発生しているケースが多くある事を受け、平成28年6月に同報告制度に基づく建築基準法の改正が行われています。主な変更内容は次の通り。

### ①定期報告の対象となる建築物

新たに、「養護老人ホーム・有料老人ホームなどの高齢者等の自力避難困難な方が就寝用途で利用する建築物」「サービス付き高齢者向け住宅」等が対象になりました。

### ②定期報告の対象となる建築設備

平成29年6月1日から新たに、「防火設備」の報告が必要になりました。防火設備については、建築物が報告対象にあたる場合でも、病院・診療所や高齢者・障害者等の就寝の用に供する用途の床面積が200㎡を超える建築物に設けられた防火設備は報告対象になります。

定期報告が必要な防火設備とは、通常開放されていて、火災時に煙や熱感知器が作動して閉鎖する防火扉や防火シャッターなどを指します。消防用設備(スプリンクラー設備などの消火設備や自動火災報知設備などの警報設備)とは異なります。

なお、「換気設備(中央管理式)」、「排煙設備(排煙機等を有するもの)」及び「非常用照明装置」は今までどおり毎年の報告が必要であり、これらの設備の報告とは別に「防火設備」の報告が必要になります。



防火設備は就寝に供する用途で200㎡を超える場合に報告対象  
 非常用照明は災害停電など有事の際に利用者の安全な避難を担保

定期報告の対象となる建築物等の一覧表は、秋田県のWEBサイトでも確認できます。



報告制度対象の建物は、各行政庁(秋田県または市)より通知が届きます。ご不明な点などありましたら、お気軽にお問い合わせください。

うちが定期報告の対象が調べてほしい...

行政から通知されたが、どう対応すれば良いのかわからない...

## NEWS 地域密着型特別養護老人ホーム「なごみの家」OPEN

29床の個室を3つのユニットで構成した地域密着型特別養護老人ホーム。ユニット内は「家」、隔てる扉の向こうは「街」、コンセプトを明確に分けた2種類の空間は、施設内にいながら暮らしにメリハリを持たせることができる空間構成となっている。3つのユニットの中心にある「街」(多目的スペース)には、広場「Park」があり「Street」を挟んで「Café」、「Studio」が並んでい

る。多目的スペース全体が入居者だけでなく、地域の方々に開放して交流ができるようになっている。「Park」は植物が置かれ、くつろぎの場やイベントスペースとして、「Café」は飲食提供も可能なスペックとなっている。「Studio」は防音室となっており、映画上映、カラオケ、家族と共に映像を楽しむこともできる。「家」(ユニット)の共同生活室は、ハイサイドライトから差し

込むやわらかな光とナチュラルなインテリアで穏やかに過ごせる空間となっている。入居者にとっての快適さや暮らしやすさはもちろんのこと、多岐にわたるハードな業務をこなす介護職の方々が、楽しみながら働ける環境づくりにも配慮した。



撮影:井上剣太郎(井上写真工房)



建築主:社会福祉法人あけぼの会 延床面積:1,229.59㎡  
 所在地:秋田県大仙市船場町 設計監理:株式会社やまと建築事務所  
 構造規模:木造 平屋建 施工:株式会社丸茂組  
 用途:特別養護老人ホーム 竣工:令和2年3月

# with コロナ時代に求められる職場環境をつくる！ 働く場所におけるコロナ対策

コロナの収束が見えない中、「自分の会社においては感染症対策が整っていないのではないか」と不安を感じている経営者が多いことが、様々なアンケート調査から見えてきています。安心して働けるオフィスとそうでないオフィスでは、働いているスタッフの心理とパフォーマンスに大きな差が生じます。では、具体的にどんな対策方法があるかご存じでしょうか。今回は、8月5日に開催されたWEBセミナー「with コロナ時代の職場のあり方・つくり方」※の中でご紹介したコロナ対策の方法を、いくつかご紹介いたします。

※主催：あきたオフィス活性化支援協議会・やまと建築事務所 / 協力：武田電気設計・岸田設備設計・三菱電機・LIXIL・INEX

## ①間接的な接触感染ルート対策の方法

### (1) 外部から持ち込まない

基本の一つは、手洗い。オフィスや施設においては、玄関付近で手洗いをしてもらってから入ることが望まれます。写真はあたる福祉施設の例。玄関から入ってすぐ、応接室の手前に手洗器が設置されています。共用部に手洗器を置くといわゆる「施設感」が高まると思われがちですが、周囲のインテリア次第で、かえって空間のアクセントにもなり得ます。

施設系の場合は、手洗いの大きさを見直したいケースがあります。手洗



い器が小さいと、手首以上が洗いづらく十分な洗浄ができません。また、自動水栓やペーパータオルの設置が望まれます。既存交換の場合は、電気温水器をつけると思われがちですが、新たに電源を引く工事が必要となる他、電気代も上がる事を念頭に入れておく必要があります。



スタッフ用手洗器 (LIXIL)

不特定多数の来場がある施設においては入場者の体温チェックも重要です。すでに多くの施設が取り組んでいます。感染リスクを下げる「非接触タイプ」が望まれます。



非接触タイプの体温計。実勢価格は9,000円程度から。写真はドリテック社 TO-402。(問い合わせ先: 共栄メディカル)



入退室管理や来場者記録をパソコンに保管しておけるシステムも。多数の来場がある施設には便利だ。  
問い合わせ先: 共栄メディカル

スピーディに異常体温者を検知するシステムも。80万円以上の高機能クラスから、ハンディタイプであれば、実売20~30万円程度も。



体温検知マスク検知業務管理 (アイネックス)

コロナウイルス感染症対策の基本は、感染経路のコントロール(抑制)につきます。社員や訪問者が、何らかの場所で感染してしまい、保菌したまま会社に来てしまうことで感染が広まってしまいます。では、具体的に、職場・オフィス内のどんなところが感染ルート(感染媒体)となりうるのでしょうか。主に次の二つが考えられます。

- ①間接的な接触感染ルート
- ②空気・飛沫感染ルート

「ウイルスを持ち込まない」という観点から、保菌者の入場制限や手洗い・手指消毒が基本的な対策となりますが、第2、第3の対策を考える際、上記の①、②がヒントとなります。

①については、不特定多数の人が共有して触る設備、例えばトイレなどの水回りのハンドル(蛇口)やドアハンドルが弱点となります。

②については、浮遊ウイルスを含んだオフィス内の空気をどう処理するか、がポイントとなります。

これらについて、具体的な対処方法をいくつかご紹介いたします。

### コロナ対策の基本

#### 感染経路のコントロール(抑制)

オフィス内で考えられる感染ルートは?

- ①間接的な接触感染(共用部:水回り・ドア)
- ②空気・飛沫感染(室内空気)

## (2) タッチレス化(非接触化)

共用部分で多数の人が触る部分を、非接触でも使用できるようにする方法。水回りはタッチレス化がしやすい。蛇口をセンサー付きの自動水栓に交換したり、既存便器の水栓をセンサー式のものに交換することも可能です。電池式の自動水栓であれば電源工事などの大がかりな工事は不要。水栓の本体価格はいずれも5~6万円程度。



取り換え用オートマージュ(LIXIL)



センサー式自動水栓に→フラッシュマン(ミナミサワ)

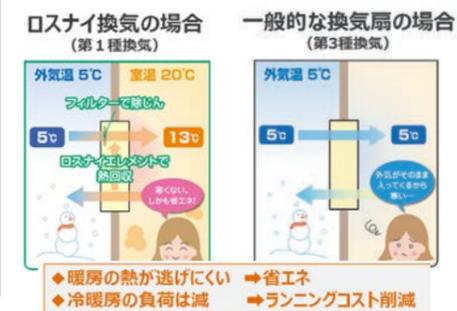
## ②空気・エアロゾル感染対策の方法

### (1) 換気する

ウイルスを含んだ空気をどう処理するかとなった場合、最も取り組みやすく効果が高いのは換気。換気には窓を開ける「自然換気」と、換気扇等を回す「機械換気」の2種類がある。天候など外部環境に作用されずに安定的に換気ができるのは「機械換気」方式。

機械換気の中でも、「第一種熱交換換気(ロスナイ)」方式が、オフィスには効果的です。室内の確実な給気と排気が可能とな

る上、換気経路も明確。また、空気の熱交換をすることで、冷暖房の負荷が減るため、ランニングコストの削減にもつながります。



### (2) 空気を直接滅菌処理する

①備品・家電タイプのアイテムを活用する方法と、②建築設備タイプのアイテムを活用する方法があります。様々な商品が出回っていますが、ポイントは人体に有害でないシステム(目・皮膚・肺)を選ぶことです。



「エアリアシーリング」(岩崎電気)



「アイポッシュ」(Local Power社)  
弱酸性次亜塩素酸水(200ppm)にて不活性化。食品製造用水としてクリア(飲めるレベル)した安全性。電解法、二液法でなく、イオン交換法。長期保存可。



「ナデブラン」(三ウラ社)

玄関や応接室など、換気がしにくい小空間に。液体イオン化した銀により空気除菌。ウイルスを不活性化する。

## コロナ以降のこれから 短期~中長期の変化

### コロナ対策の一次的効果 (短期視点)

経営者側にとっては、コロナ対策により社内環境の向上に加え、「スタッフを守りたい」という意思の見える化が実現します。これによりスタッフ側にとっては、「会社は自分達を大事に想ってくれている」という安心感が生じます。ロイヤリティや生産性の向上にもつながる効果も副次的に生まれることとなりそうです。

### ワークスタイルの変化 (中長期視点)

コロナウイルスの影響によりオフィスの在り方やワークスタイルが大きく変化しています。人と会うこと・移動することが制限された中で業務をこなすことが求められた結果、日本中の多くの会社でテレワークが一気に浸透しました。zoomなどを使ったWEBミーティングなど、打合せや会議の方法も変化しています。今後は、ICT技術を活用した、テレワークへの対応を前提としたオフィス・働く場のデザインが必須の社会に大変革していくことが予想されています。今回のコロナ騒動を、「変化に適応できる会社の未来づくり」として前向きにつなげていきたいものです。

## 山田美知男展「縷縷(るる)」

会期:2020年9月20日(日)~10月25日(日) 午前9時~午後5時 会期中無休  
会場:仙北市立角館町平福記念美術館 入館無料

秋田県角館に生まれ、大仙市大曲在住の日本画家、山田美知男さん。院展入選8回、春の院展入選7回をはじめ多数の受賞歴を持ち、精力的に展覧会を開催する若手日本画家のおひとりです。雪国に生まれ育った山田さんが、幼少期から現在まで感じてきた光景。細く長く、縷縷として続く雪国の人や動物の営みを描いた絵からは、息づかいが聞こえてきそうです。



「見守る」